科目名	ナンバリング	区分（必修・選択）	単位数	履修年次	開講学期等
成人・老年看護援助Ⅱ	NSP33__003	必修	1	3	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
梶原　睦子　他	409	mutsuko.kajiwara	授業終了時、金曜日 16:00～17:00		

授業の目的・概要	成人期・老年期に特徴的な健康障害をもつ事例を用い、看護過程を学ぶ。 看護過程の展開では、成人期・老年期の成長発達の特徴及び役割や健康問題など理解したうえで、看護の視点から身体的・心理的・社会的側面の情報を統合したアセスメントにより、対象を全人的に捉える思考過程を学ぶ。また、看護過程演習をもとに、対象への看護を具体的に考えることで、臨地実習での看護実践につなげる。
授業形式・方法	☑対面授業　☑講義　☑演習　☐PBL　☐反転授業　☐ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ・ﾃﾞｨﾍﾞｰﾄ ☐遠隔授業(双方向型)　☑ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ　☑ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ　☐実習・ﾌｨｰﾙﾄﾞﾜｰｸ ☐遠隔授業(自主学習)　☐実習　☐実技　☐その他　（　　）
学習上の助言	成人・老年看護援助論Ⅱは、3 年次後期からの成人・老年看護学実習につながる重要な科目である。 授業内で実習を想定した事例を示すので、積極的に授業に臨むこと。
教科書	・系統看護学講座専門分野Ⅰ　基礎看護学〔2〕　基礎看護技術Ⅰ　/医学書院 /2021 ・看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　第5版/著:秋葉公子他 / ヌーヴルヒロカワ/2023 ・経過別成人看護学②　周術期看護　第 2 版 /編:嶌田理佳 /メヂカルフレンド社 / 2024 ・経過別成人看護学③　慢性期看護　第2版 /編:黒江ゆり子 /メヂカルフレンド社 / 2021　〔4冊指定〕
参考書	看護がみえるvol. 4 看護過程の展開 / メディックメディア / 2020
外部教材	特になし

	学生が達成すべき行動目標	関連卒業認定・学位授与方針
①	看護における看護過程のもつ意味が説明できる。	NS(2)(3)
②	ヘンダーソン看護論の重要概念が説明できる。	NS(2)(3)
③	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開方法が説明できる。	NS(2)(3)
④	ヘンダーソン看護論により事例の情報整理・アセスメントが記述できる。	NS(2)(3)
⑤	アセスメントから看護関連図および看護上の問題を記述できる	NS(2)(3)
⑥	事例の看護上の問題の統合を行い、看護計画の立案ができる。	NS(2)(3)

授　業　計　画

回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間（時間）	
1	オリエンテーション 問題解決技法としての看護過程とヘンダーソン看護論の特徴	講義	事前課題：2 年次の看護過程演習の復習	1
2	ヘンダーソンによる看護過程の展開の進め方 急性期　慢性期	講義	事前課題：1 回目の授業内容の復習	1
3	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開① 事例 1：対象理解	講義・演習 GW	事前：提示された事例を読む。 事後：常在条件・病理的条件を記載してくる。	1
4	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開② 事例 1：情報整理・アセスメント	講義　演習 GW	事例の情報整理（14 項目）をしてくる。	1
5	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開③ 事例 1：情報整理・アセスメント	講義　演習 GW	事例のアセスメントをしてくる。	1
6	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開④ 事例 1：看護上の問題の抽出　看護関連図の作成	講義　演習 GW	問題点を統合し、問題リストを書いてくる。関連図を書いてくる。	1
7	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開⑤ 事例 1：看護計画立案　発表準備	講義　演習 GW	看護計画を立てる。	1
8	事例 1 の発表　半分のグループ　偶数グループ	発表会	発表会　質疑（偶数G）応答	1
9	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開① 事例 1：対象理解（対象理解）事例 2：対象理解	講義　演習 GW	事前：提示された事例を読む。 事後：常在条件・病理的条件を記載してくる。	1
10	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開② 事例 2：情報整理・アセスメント	講義　演習 GW	事例の情報整理（14 項目）をしてくる。	1
11	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開③ 事例 2：情報整理・アセスメント	講義　演習 GW	関連図を書いてくる。	1
12	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開④ 事例 2：看護上の問題の抽出　看護関連図の作成	講義　演習 GW	問題点を統合し、問題リストを書いてくる。関連図を書いてくる。	1

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/成人・老年看護学】

13	ヘンダーソン看護論による看護過程の展開⑤ 事例 2：看護計画立案　発表準備	講義　演習 GW	看護計画を立てる。	1
14	事例 2 の発表　半分のグループ　奇数	発表会	発表会　質疑（偶数G）応答	1
15	まとめ	講義・演習		1
試	達成度評価、評価のポイント参照			

達成度評価

総合評価割合（%）	試験	レポート	成果発表	ﾎﾟｰﾄﾌｫﾘｵ	その他	合計
	0	70	10	0	20	100

総合力指標						
知識・技術力	0	30	0	0	0	30
思考・推論・創造する力	0	10	0	0	0	10
協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
発表・表現伝達する力	0	0	5	0	0	5
コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
取組みの姿勢・意欲	0	0	5	0	10	15
問題を発見・解決する力	0	30	0	0	10	40

評価のポイント

評価方法	行動目標		評価の実施方法と注意点	フィードバックの方法
レポート	①	✓	事例 1、事例 2 について評価する。	提出された事例について授業中に助言する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
成果発表	①	✓	成果発表への取り組み状況について評価する。	発表時に助言する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		
その他	①	✓	授業に臨む姿勢、授業への出欠席を評価する。	授業中、適宜助言する。
	②	✓		
	③	✓		
	④	✓		
	⑤	✓		
	⑥	✓		

備　考

他担当教員	堀口まり子、吉岡睦世
教員の実務経験	科目責任者は病棟看護師として 5 年、看護外来（非常勤）にて約 15 年、看護系大学教員として 20 年間の勤務経験を有する。 担当教員は看護師として豊富な臨床経験や教育経験を有しており、臨床での場面を想定した看護過程の展開を効果的に学べる環境である。
実践的授業の内容	実務経験のある教員の指導のもと、成人看護学の看護過程の基本的について理解を深める。 教員の経験からの実践事例を取り上げ、教科書と比較しながら学習する。
その他	・授業には特別の理由がない限り毎回出席し、理由のない授業の欠席は減点とする。 ・感染症の状況などの社会情勢により再度シラバスの変更があることも考えられるが、その際は随時、お知らせする。